

地域の公民館として改めて考える

講座編 ②

現状と問題

このテーマで取り組み続けて5年目。区切りをつけて総まとめとしたかったが、今年度も試行錯誤の繰り返しで終わりそう。そのような中でも講座の充実を目指して、講座の企画・実施においては講師との対話を意識しながら、最後まで取り組んでいきたいと思っている。

取り組みと結果

新規講座の企画にあたっては、これまで以上に講師と協議・検討を重ねて準備。ベテラン講師にはお任せになってしまうことも多いが、新しい講座・講師の場合は、受講者に分かりやすく伝わるように内容、進め方、資料などについて細かく話し合う。口を出し過ぎたかも…と思うこともあったが、講師には担当者の提案等に真摯に向き合っていていただき、とても感謝している。

新規講座の企画

＜取り組み＞

毎年度、新規講座を企画してみるが、思ったほど受講者が集まらず、次の年につながらないことも多い。今年度は、春2つ、夏3つ、秋1つの新規のうち、来年度につながりそうなものが3つ～4つになりそうで例年より打率がいい。

＜結果＞

◎心のままにパステルアート【春・秋】

昨年度「夏休みこども講座」で実施した際、子どもよりも大人の方が熱中している様子を目にして、成人向け講座を企画。他館に類似する講座がなく、当館の特色ある講座として開催していきたいと考えた。

春は初開催ということもあり、一人ひとりの指導に時間を要し、時間オーバーとなったので、秋は時間を見直して実施。講師も進め方を見直しながら、入念に準備を整えてくれている。



心のままに
「パステルアート」

「春の講座」作品（金魚）▶



◎夏休みの「はなまるランチ」【夏休み】

例年「夏休みこども講座」の参加者が少なく、毎年新しい企画を考えては撃沈。この夏も一人の申し込みもなく中止した講座が…。一方、親子料理教室は満員御礼だった。これまでの子ども講座のアンケートで「公民館で何をしたいか」との問いに「料理」という回答がたまに見られたが、果たしてどれくらい参加するのか…材料費の採算を考えて踏み出せないでいた。

今年度、ついにネタも尽き、思い切って親子料理に挑戦することに。せっかくなら、夏休みのお昼ごはんを頭に悩ませる保護者にも役に立つものにしたい。



夏休みの
「はなまるランチ」

特製タコライスと牛乳寒天▶



“手軽で” “美味しくて” “栄養バランスのよい” ランチ。しかも、安価で、デザートも付けたい…と欲張ったが、講師も初めての子ども講座に気合いが入り、家庭でも取り入れやすいレシピが完成した。「親子で楽しく料理に取り組めた」という声が聞かれ、来年度以降も開催したい講座。

◎股関節を中心に「真向法体操」【秋】

どこの公民館でも運動・健康系の様々な講座が企画され、人気の高いものも多いと聞く。当館でも需要の高さを感じており、新たな運動系講座を模索しようとお試的に企画。初開催にもかかわらず、講師の人气が高く定員の倍近い応募があり、講師と相談して応募者全員を受け入れて開催。

指導内容は、真向法、ヨガ、筋トレ、ストレッチの様々な動きを取り入れた独自のメソッドで充実しており、ぜひ継続したいと感じた。受講者からも、継続的な開催や増回数を望む声が多いが、講師の事情で、春、秋1回ずつしか対応できないとのこと。当面、できる範囲で続けていきたい。



骨盤を中心に「真向法体操」

講師・受講者のフォロー

<取り組み>

新しい講座で資料がある場合は、分かりやすいものとなるよう文章やレイアウトなどを提案した。また、開講中は受講者の反応に注視し、「理解できていないのでは?」「疑問があるのでは?」…と感じたときは受講者に質問を促したり、ときには受講者の代わりに質問・確認したりした。

<結果>

講師も経験が浅いうちは、全体に目が届かなかったり、受講者の理解度を掌握できなかったり、質問を引き出せなかったりする。講師と受講者のコミュニケーションをフォローする必要を再認識。

新しい講師の活動支援

<取り組み>

新しい講師は指導の機会や場を探していることも多いが、見つけるのは容易ではないと思われる。講師としてのスキルを磨いていただくためにも経験を積む場が必要だが、館の講座も時期や回数が限られているので、当館で開催される催しなどで活動できる機会を見つけて紹介している。

<結果>

昨年度、連携の一例として紹介した「認知症カフェ」に引き続き講師を紹介している。紹介する際は、経費や内容などを地域包括支援センターや講師と一緒に考えて、できるだけ実現できるよう支援。来年度についても「ドライフラワーアレンジ」の実施を検討してもらっている。

課題とこれから

当館で活動を始めた講師には、今後幅広く活躍してほしい。そのために公民館としてできる支援を続けていきたい。講師は知識や技術を伝えるだけではなく、受講者のやる気・意欲を引き出す「生涯学習の担い手」であり、魅力的な講師は公民館にとって大切な存在だと改めて感じる。

これからも講師との対話を大切にして講座の充実にも努め、地域の生涯学習の拠点としての役割を果たせるようになりたいと思う。

(文責 水戸 嘉子)